

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03374

研究課題名(和文) イスラム・バンクレント理論構築とムラバハ症候群の制度的解釈

研究課題名(英文) Conceptualizing the theory of Islamic bank rent and institutional understanding on Murabaha syndrome

研究代表者

鈴木 泰 (SUZUKI, Yasushi)

立命館アジア太平洋大学・国際経営学部・教授

研究者番号：00350752

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：イスラム銀行が陥っている「ムラバハ症候群」の実態に、アジアのムスリム国(インドネシア、マレーシア、バングラデシュ、パキスタン)および湾岸諸国のケーススタディを加え、広範囲に亘る比較調査から分析の光を充てている。本研究の一つの貢献は、政府主導により、競合する一般商業銀行と競争できるようになるための「学習レント」機会を捕捉できたマレーシアやバーレーンのイスラム銀行が、収益性と安定性を確保できているのに比べ、そうしたレント捕捉機会がないまま、競争に晒されたインドネシアのイスラム銀行が、収益性と安定性を確保できず、同国のイスラム銀行による金融浸透度を著しく低い状況に留めていることを指摘した点である。

研究成果の概要(英文)：This research sheds an analytical light on the reality of 'murabaha syndrome' into which Islamic banks have fallen, by means of conducting an extensive comparative study on the cases of Asian Muslim countries such as Indonesia, Malaysia, Bangladesh and Pakistan, as well as the cases of Gulf Cooperation Council (GCC) countries. One of the contributions by this research is to point out that under the governmental initiatives, Malaysian and Bahrain Islamic banks were given the opportunity to capture 'rents for learning' to enable them to acquire the base of profitability and stability enough to compete with conventional banks, while Indonesian Islamic banks were not given such bank rent opportunity and were just exposed to severe market competition with conventional banks. This failure in Indonesia may have undermined the profitability and stability of Islamic banks, resulting in the extraordinarily low level of market penetration by Islamic banks in Indonesia.

研究分野：比較金融制度論

キーワード：イスラム銀行 ムラバハ ムシャラカ インドネシア バングラデシュ マレーシア パキスタン 湾岸諸国

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の予備的研究過程において、イスラム銀行が、一般商業銀行と比較して、高い収益性を維持している一方で、比較的信用リスクの低いムラバハ (*murabaha*) と呼ばれる取引 (購入代金を立て替え、品物を貸渡し、販売に応じて代金を回収する貿易・商業金融) を選好する極めて保守的な審査・貸出傾向 (「ムラバハ症候群」と呼ばれる) - ハイリスク・ハイリターン原則からすれば一見矛盾する現象 - があることがわかった。研究代表者は、バンクレント\*捕捉機会を創出する金融抑制政策の有効性分析を専門としており、その応用によって、イスラム銀行がムラバハ症候群に陥るメカニズムを説明できないか考えるに至り、本研究の申請を行った。

\*「レント」(Rents) は、新古典派が想定する競争的市場においては発生しない「超過利潤」を指す。銀行が捕捉するレントは「バンクレント」と呼ばれる。静学的には、レントの発生は、厚生経済学上、有効な資源配分が損なわれていることを示す一方で、レント獲得機会が、経済主体にとって適正なインセンティブとなり、動態的には、効用の高い均衡に至るケース (例えば、銀行がレントを獲得することにより、支店ネットワークを広げ、より多くの預金を預かり、あるいは審査モニタリング向上のための投資を行うことにより、結果的に、より多くの金融資源が仲介されるようになるケース) がある。一方で、レントを発生させる保護的規制が、経済主体にモラルハザード効果 (例えば、公的資金にて最終的には救済されることを念頭に、ずさんな審査・過剰融資を行い、不良債権問題を抱えるケース) を与えることもある。インセンティブを与えるとともに、モラルハザードを起こさせない制度設計が求められる。バンクレントを創設する制度的枠組みとして「金融抑制政策 (Financial Restraint Policy)」が知られる。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、イスラム金融仲介様式を支える制度的構造を、制度(ルール)がどのような「インセンティブ」および「制裁」「拘束力」を創り出しているかの観点[制度経済学的手法]から分析し、特に、「イスラム・バンクレント」(イスラム銀行が捕捉する特有の収益) という新しい概念を精緻化し、イスラム銀行が陥っている「ムラバハ症候群」のメカニズム分析およびその対応策を提示することを目的とした。イスラム金融商品や金融契約の特徴に関する研究は進んでいるものの、イスラム金融仲介様式が有する合理的基盤・構造的課題について制度的分析を行う研究は依然限られている。イスラム金融に見られる倫理・制度的特徴を吟味し、周期的に繰り返されるグローバル金融不安に対し、米国型金融制度とは異なる、新たな日本型あるいはアジア型の金融仲介様式をデザインする議論に貢献することを目的とした。

(2) 本研究は、研究期間内において、(1) 各経済主体間 (イスラム金融機関、預金者、企業、監督官庁) の損益分担 (Profit-Loss Sharing, PLS) の実態調査 (データ収集、各経済主体からのヒアリングやインタビューを含む。対象国は、主としてインドネシア、バングラデシュ、マレーシア) および (2) イスラム銀行特有のバンクレント捕捉機会の試行的計量化を含め、他の一般商業銀行の貸付動向・パフォーマンスとの定量的比較分析を通じ、「イスラム・バンクレント」捕捉機会の合理性と今後の課題 - ムラバハ症候群への対応策 - を明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 「イスラム・バンクレント」の概念化と仮説立案：イスラム銀行は金利を付すことが許されていない (リバ [*Riba*] の禁止原則)。しかし、各銀行は、ケインズの言う「資本の限界効率」 (Schedule of Marginal Efficiency of Capital) に従い、資本調達コストと資本運用との差額 (運用スプレッド = 収益) を確保しようとしているという前提から、その PLS に基づく期待スプレッド・マージンには、一般商業銀行が捕捉しているのと同じように、各借手手の信用リスクを反映したリスクプレミアムが反映しているものと考えた。加えて、イスラム銀行は PLS により、借手が行うプロジェクトそのものの事業リスクを分担する契約になっていることや、イスラム規範 (シャリア) を遵守できない場合、預金者から見放されるリスク (Displacement Risk と呼ばれている) 等、一般商業銀行に比べ、その収益構造は不確実性に晒されており、そのため、特有のリスク・不確実性をカバーする収益 (レント) を必要とするという仮説を立てた。

#### **イスラム銀行のスプレッド・マージン = リスク調整後期待収益 + $\alpha$**

一般商業銀行に比べ、高いリスク・不確実性に対応するための超過収益 ( $\alpha$ ) を「イスラム・バンクレント」と定義し、ポストケインズ派、マルクス派経済学の観点から、理論の精緻化をはかった。

(2) 現地調査・定量/定性分析：上述の3カ国を中心に、他のムスリム国も加え、イスラム金融機関の財務データを分析し、資産負債状況、不良債権比率、収益構造の総合的な比較分析を行

った。加えて、現地イスラム金融機関、監督官庁とのインタビューを通じて、定性的データ収集も行った。

#### 4. 研究成果

(1) 「イスラム・バンクレント」概念（一般商業銀行が捕捉する収益に加え、イスラム銀行が直面する特有のリスクを吸収するために求められる追加の収益機会）の提案は、既に2014年に、国際的イスラム金融ジャーナルである International Journal of Islamic and Middle Eastern Finance and Management (IMEFM, Emerald社) で発表し、学界では相応の注目を集めた。本研究期間では、当該概念をレビューし、更に、経済の金融化が抱える諸問題やグローバル金融市場に見られる脆弱性について、イスラム・バンクレントの捕捉機会がもたらし得る効果について、学会で発表するとともに(【学会発表】)、論文(【雑誌論文】)を発表した。また、レント追求行動理論から、正義 (Justice) 追求行動について分析する政治経済学視点から展開した論文も別途発表した(【雑誌論文】)。なお、IMEFM で発表した論文は、2017年に Routledge社から出版された編書(【図書】)の章として再掲しており、更なる研究者からの注目・批評が期待される。

(2) イスラム・バンクレント理論の精緻化をはかるための実証研究として、ムスリム人口の多いインドネシアを中心に、バングラデシュ、マレーシア、そして、当初の予定には入れていなかったが、パキスタン及び Gulf Cooperation Council (GCC) 湾岸諸国におけるイスラム銀行と一般商業銀行とのパフォーマンス比較を行なった。イスラム銀行が陥っている「ムラバハ症候群」の実態を、アジアにおけるムスリム国(インドネシア、マレーシア、バングラデシュ、パキスタン)のケーススタディにより明らかにし、加えて、湾岸諸国のケーススタディも取り上げることで、国ごとのイスラム銀行の収益性および安定性について、広範囲に亘る比較分析を行うことができた。特に、政府・中央銀行の主導により、競合する一般商業銀行と競争できるようになるための「学習レント」機会を捕捉できたマレーシアやバーレーンのイスラム銀行が、一般商業銀行同様の収益性と安定性を確保できているのに比べ、そうしたレント捕捉機会がないまま、競争に晒されたインドネシアのイスラム銀行が、収益性と安定性を確保できず、結果として、同国のイスラム銀行による金融浸透度が著しく低い状況に留めていることを、実態分析を通じ明らかにすることができた。これらの研究成果は、Routledge社から出版した「Banking and Economic Rent in Asia」(【図書】)の章として発表を行った(第7章: Islamic bank rent: comparison among Bangladesh, Indonesia, Malaysia, and Pakistan、第8章: Financial sector rents in GCC counties: are Islamic banks different?)。また、2017年夏に、インドネシア大学主催の国際学会で、インドネシアのイスラム銀行の抱える諸問題と課題について発表し(【学会発表】)、現地研究者との意見交換も行うことができた。

(3) インドネシアにおけるイスラム銀行の貸出ポートフォリオを調査した段階で、「ムシャラカ」と呼ばれる、パートナーシップ契約(プロジェクトが成功すれば利益が分配される一方で、失敗すれば損失を負担しなくてはならない)に基づく金融形態が比較的多く見られることがわかった。現地銀行関係者とのインタビュー等を通じ、インドネシアのイスラム銀行が手掛けている「ムシャラカ」は、「ムラバハ」金融を行う金融子会社への貸付や、大型建設案件で、建設期間中のつなぎ資金としての貸付(建物が完成した際には「ムラバハ」に切り替えられる)等に使用されており、すなわち、本来のパートナーシップ契約に基づく金融というよりは、その本質はむしろ「準ムラバハ」ともいえるものであり、総じて、インドネシアのイスラム銀行も、実態としては、極めて保守的な貸出方針にあることを明らかにした。この研究成果は、国際的イスラム金融ジャーナルである Journal of Islamic Accounting and Business Research (JIABR, Emerald社)の査読を受け、掲載予定となっている(【雑誌論文】)。

(4) 当初は予定に入れていなかったが、イスラム銀行に加えて、イスラム・マイクロファイナンス、イスラム・ベンチャーキャピタルの抱える構造的問題とその課題について、イスラム・バンクレント理論の枠組みから考察し、論文を発表した(【雑誌論文】)。イスラム金融を支える損失シェア (PLS) を前提にした金融手法では、イスラム金融機関にとって、返済財源に限りのある借り手の信用リスクや、不確実性に晒されるベンチャー企業リスクを吸収するに十分な収益機会を得ることが難しく、また、そうしたリスクをヘッジしたり分散したりする手法の導入にも極めて消極的である実態を、これらの論文で明らかにした。

(5) ムラバハ症候群自体は、銀行に過度なリスクを取らせず、不良債権を抱えにくくするという観点から、金融市場の安定に資する面がある。その一方で、経済成長に必要な金融資源の仲介や次世代の技術革新のための投資が阻害され、経済を活性化させないというマイナス面が指摘できる。ムラバハ症候群に対する安易な批判に対する批評、及びイスラム金融において禁止

される「過度な不確実性」(ガラル)を巡る分析について、2018年、Routledge社から出版した編書「Dilemmas and Challenges in Islamic Finance」(【図書】)の章として出版した。今後の展望として、イスラム銀行間の暗黙の共謀による非効率な独占レント捕捉に陥らせず、イスラム・バンクレント捕捉機会を、健全な金融資源仲介を促すインセンティブにさせるための制度設計の提言に向け、イスラム・バンクレント概念をさらに精緻化するとともに、その収益機会がどのようにイスラム銀行のリスクマネジメント向上に繋がっているのか、監督官庁によるガバナンスの問題も含め、さらに分析を進めていくことを計画している。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

Yasushi Suzuki, S.M. Sohrab Uddin and Sigit Pramono, 2018. "Do Islamic Banks Need to Earn Extra Profits? : A Comparative Analysis on Banking Sector Rent in Bangladesh and Indonesia", *Journal of Islamic Accounting and Business Research*, Forthcoming. 査読有(掲載決定済)

Yasushi Suzuki, 2016. "Sufism and Suzuki Shosan's Japanese Zen Teachings", *Islam and Civilisational Renewal*, Vol. 7, No. 4, pp. 443-456. 査読有  
<http://www.icrjournal.org/icr/index.php/icr/article/view/581>

Yasushi Suzuki and Md. Dulal Miah, 2016. "Altruism, Reciprocity and Islamic Equity Finance", *International Journal of Islamic and Middle Eastern Finance and Management*, Vol. 9, No.2, pp. 205-221. 査読有

DOI: 10.1108/IMEFM-09-2014-0091

Yasushi Suzuki, Sigit Pramono and Rufidah Ruffidah, 2016. "Islamic Microfinance and Poverty Alleviation Program: Preliminary Research Findings from Indonesia", *SHARE Journal of Islamic Economics and Finance*, Vol. 5, No.1, pp. 63-82. 査読有

DOI: 10.22373/share.v5i1.910

Yasushi Suzuki and Md. Dulal Miah, 2015. "Transcending the Trend of Financialization: The Heterodox vs. Islamic Economics View", *Journal of Economic and Social Thought*, Vol. 2, No.4, pp. 226-241. 査読有

<http://www.kspjournals.org/index.php/JEST/article/view/515>

Yasushi Suzuki and Md. Dulal Miah, 2015. "A new institutional approach in explaining the underdevelopment of Islamic microfinance", *Islam and Civilisational Renewal*, Vol. 6, No. 4, pp. 468-488. 査読有

<https://www.iais.org.my/icr/index.php/icr/article/view/513>

Yasushi Suzuki and Md. Dulal Miah, 2015. "Justice-seeking in the perspective of rent-seeking", *Evolutionary and Institutional Economics Review*, Vol. 12, No.2, pp. 283-306. 査読有

DOI: 10.1007/s40844-015-0019-9

[学会発表](計5件)

Yasushi Suzuki, The Challenges of Globalization and the Role of Regionalism from the perspectives of Islamic finance, The 2nd International Conference on Indonesian Economy & Development, 2017年

Yasushi Suzuki, A New Conceptualization of Islamic Bank Rent, International Islamic University Malaysia, 2016年

Yasushi Suzuki and Shoaib Khan, Ownership and Capital Structure of Pakistani Non-Financial Firms, 日本金融学会, 2016年

Yasushi Suzuki and Helal Uddin, Difference between Islamic and Conventional Banks: A New Approach, The 13th Asia Pacific Conference, 2015年

Yasushi Suzuki, Heterodox Perspectives on Islamic Prohibition of Riba and Gharar: Towards Transcending the Trend of Financialization, 日本金融学会, 2015年

[図書](計2件)

Yasushi Suzuki and Md. Dulal Miah, 2018. *Dilemmas and Challenges in Islamic Finance: Looking at Equity and Microfinance*, Routledge, 216頁

Yasushi Suzuki, Md. Dulal Miah, Manjula K. Wanniarachchige and S. M. Sohrab Uddin 2017. *Banking and Economic Rent in Asia: Rent effects, financial fragility and economic development*, Routledge, 1-37, 58-85, 121-204頁

## 6. 研究組織

(1)研究代表者 鈴木 泰 (SUZUKI, Yasushi)

立命館アジア太平洋大学・国際経営学部・教授

研究者番号：00350752

(4)研究協力者 S. M. Sohrab Uddin ( UDDIN, S. M. Sohrab )  
チッタゴン大学 ( バングラデシュ ) ・ 教授

Sigit Pramono (PRAMONO, Sigit)  
イスラム経済研究所 ( インドネシア ) ・ 会長

Md. Dulal Miah (MIAH, Md. Dulal)  
ニズワ大学 ( オマーン ) ・ 講師

Shoaib Khan (KHAN, Shoaib)  
ハリプール大学 ( パキスタン ) ・ 講師